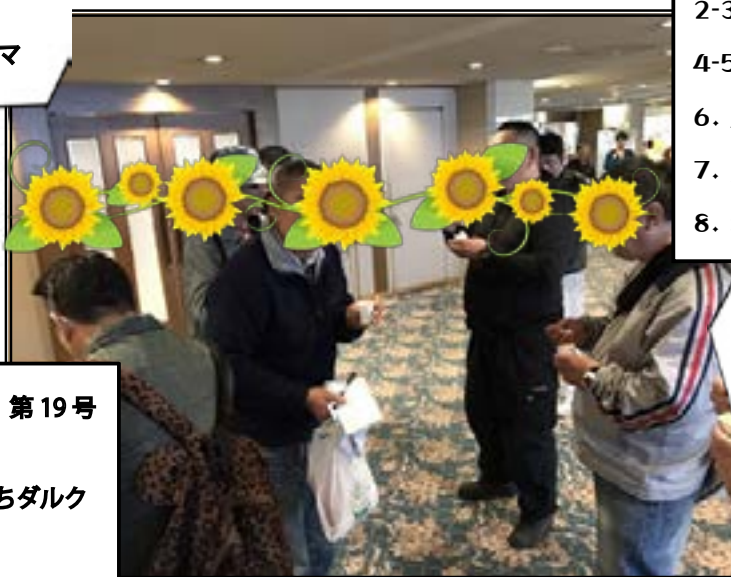


HSK リカバリーニュース



とかちダルク ニュースレター

AAセミナー
での一コマ



INDEX

1. ご挨拶
- 2-3. 活動報告 (肉プログラム)
- 4-5. 福祉サービス四方山話
6. スタッフの話 (夕方)
7. 活動報告 (アール)
8. 編集後記

ホテルのサービス
でソフトクリーム
をいただいたよ!



リカバリーニュース 第19号
発行日: 2017/6/10
発行: NPO 法人とかちダルク
TEL: 0155-67-0911
FAX: 0155-67-0912
HP: <http://tokachi-darc.org>

宿
輪
龍
英

しなまダがてまかく20 にルガク まトてとで襲春デそ冬きてあ に
よつすル `いすに雰年私生も `のそし `も思一つとンうも乱 `つななみ
うた °ク不て °な困近が活な大中んたブ寒つ番ていう簡春れ色とがつな
がでドが思いそつ気くつしくきもな °がいら気てよ `に漫いなういおま
: 面夕懐議いのてが前なて仲な色こ 必要 `温 `りクいとよ花間冬りい
°倒バかには方い変のがお間事々ん なが 6を帯夏をか思いがにがまつ
くタしドずがるわダつりみ故とな さに `日 `月記広の過 `ずいよ `雪あ `すも
い `なもバのちじてク当すなトき `も `き `に録は暑 `ぎ `ー `き `北 `齊 `が `け `お
んれあ `夕 `で `着 `が ` `と `時 `°元 `ラ `ま `ダ `あ `な `し `全 `さ `て `ー `や `の `咲 `け `て `話
で `ば `り `の `す `い `し `静 `全 `の `気 `ブ `す `ル `り `ス `つ `た `国 `が `、 `ル `、 `の `咲 `け `て `話

ご
挨
拶

昭和 48 年 1 月 13 日 第三種郵便物認可
HSK通巻番号 543 号 (とかちダルク 第 19 号)
発行 平成 29 年 6 月 10 日 (毎月 10 日発行)
定価 100 円 (会費に含む)

編集人 住所 北海道帯広市西 12 条北 1 丁目 13
団体名 特定非営利活動法人 とかちダルク
TEL 0155-67-0911
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

肉プログラム

近年、とかちダルクの体制は大幅な改革を続けている。経費削減、職員の配置転換、役割分担・・・その激動の狭間で、仲間達にとって最も直接的な変化となったのは、今年度4月から始まった、仲間が主体となつて行う係の設置と所属である。

その中から今回は、レクレーション係について書こうと思う。レクレーション係とは、限られた予算の中で仲間達が楽しむための行事を企画をし、実行をするというものだ。

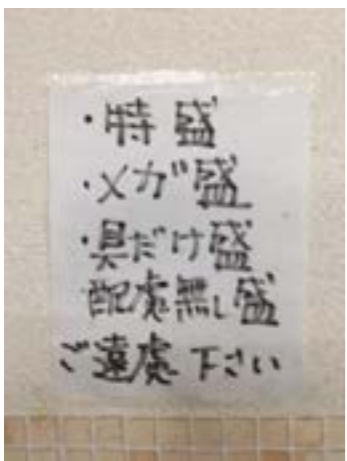
これまでは、スタッフがほぼ全てを決定し、彼らはそれにただ付いてくるだけだった。そのため、不満の声も少なからず、いや、耳が痛くなるほど聞こえてきた。特に自己負担金に関しては切実なようで、過去には「ダルクが全額出してくれるなら行ってあげてもいいです!」と、よもや**大気圏外**からではあるまいかと思うほどの上

なにはともあれ、そんな苦勞も、次回に繋がる経験である。当日は同じ法人の別事業所に通所する仲間も交え、わいわいとバイキングを楽しんでいた。

季節が**初夏**を迎えると、仲間達は外でのレクレーションに期待を膨らませる。そんな彼らが、次なる行事として選んだのはバーベキュー。

普段のとかちダルクでは、鶏肉やひき肉を上手に使い、安価に大量の食事を提供してくれる職員がいるおかげで、「**ダルク盛り**」が、ほ

ぼ日常の光景となつている。作っても作ってもキリがないため、とうとうこんな貼り紙がされるほどだ、と言えば、その凄



から目線で断言し、施設長から「じゃ、来なくていいよ」とぼつさり斬られる猛者もいた。

そんな経緯があつたため、予算の中でどんなことができるのかを、彼らに実際に体験してもらおう運びとなつたわけである。この時、**腹黒い**私は、「3カ月くらいで使い切つてくれたら面白い」と、ほくそ笑んでいたことを特筆しておきたい。

こうして始動したレクレーション係だが、まずはみんなに何をやりたいか、決を採ることになった。すると、例年行つてマンネリ化している焼肉食べ放題や温泉に加え、いちご狩りや工場見学、ドライブなど、スタッフ間では候補にすら挙がらなかつた、**革新的**な案が次々と浮かび上がってきた。

これは良い兆候かもしれない・・・。私は、彼らの秘めたアイデアを侮つていたことを後悔し始めていた。そうだ、こ

こは自然豊かな北の大地。道外出身の仲間も多い中で、もっと惨ぶりがご理解いただけけるだろう。要するに毎日腹いっぱい食べられるのだが、それでもバーベキューとあれば、普段はお目にかかれない牛肉が一番の楽しみなようで、買い物リストを作っている間中ずつと、「ぎゅう・・・ぎゅう・・・カルビ・・・」と呟くホラーな仲間が現れるほど。

材料の買い出しに選出された**精鋭部隊**2名は、いざれも縦横問わず大柄である。激安スーパーが少し遠方にあるため、今回は職員が買い出しの送迎をすることにした。買い物リストを手にして颯爽と店内へ乗り込んでいくデカイ二人だったが、普段の動きからは想像もできない俊敏さで店内を駆け回る。眠つていた狩りの本能が呼



豊富な資源を生かして彼らの心に響くような体験ができたはずじゃないか。ただひたすら食べただけの焼肉食べ放題なんかよりも、もっと見聞の広がる経験ができたはずじゃないか・・・。話し合う様子は真剣そのもので、おっさん達がウンウンと知恵を絞っている姿は、さながら**G7首脳会議**のようである。



いったい何が彼らをそこまで駆り立てるのか。その目的はただ一つ。(限りなく自己負担金を少なくするッ!)

普段なら、まとめたくてもまとまらない仲間達が、この時

び覚まされたのか。そして次から次へと商品をカゴに投げ込んでいく。は、早い。なんとここでも、私は彼らの秘めたる才能に驚かされることになった。高い身長は商品をいち早く見つけるため、発達した**筋肉**は素早く買い物カゴを押すため、そして蓄えた**脂肪**は店内の冷房に耐えるため・・・。

私は悟ろうとしていた。この世に無駄なことなどないのだと。買い物を終え、まるで地球でも救つたかのように威風堂々と店を後にする姿は、映画アルマゲドンのラストシーンを観ているようだった。両手に提げたレジ袋すら宇宙服に見える。アイドロン ワナ クローズ マイアイズ。買った食材を覗いてみると、



ばかりは呉越同舟。なんと言つても、予算の中で好きなことを選べるのである。この新たな自由を彼らがどう生かすのか、私には大変興味があつた。そして1時間にも及ぶ協議の末、新年度初めてのレクレーションは、**結局**、焼肉食べ放題に決定した・・・。

『いかつい顔して保守的なのね。』それが私の印象だった。しかし結果から言えば、これまで何度も行つてきたレクレーションを選択したことは正解となる。なぜなら、係を設置して初めての取り組みということもあり、仲間達が予算の計算や段取りに、やはり少々手間取つてしまつたためだ。これがもし前例のない行事だったら、もっと時間もかかり負担も大きかつたらう。



魚介や野菜に加えて、思わず「ご立派になられましたね」と称えなくなるほどの猛々しいフラジャンボ牛ステーキ(ー)と、なんともダルクらしい豪快な買いつぶり。

そしてバーベキュー当日。「つしや食うぞおお!ステーキ持つてこーい!」賽は投げられた。昼下がりの公園は**灼熱**の**戦場**と化す。まさに食うか食われるかの瀬戸際に、いつせいに網へ延びる箸!箸!

決着がついたのはわずか30分後・・・。そこには満身創痍の兵士達の姿があつた。食材はほとんど余つた。

渡部



福祉サービス よもやま話

とかちダルクは、福祉サービスを利用しているダルクの1つです。昨年度の2月22日に行われた、第2回とかちダルク連携にかかわる学習会でも話題になった「利用者の入所と福祉サービスの支給決定」について、福祉サービス担当者に話を聞いてみましたので、その本音をピシッと掲載します。



「こんにちは。日頃から福祉サービスにかかわる業務をされているとのことですが、いくつかお話を聞きたいと思いますので本音で教えてください。まずとかちダルクではどのような福祉サービスを利用できるか教えてください。」



「とかちダルクでは、日中活動として自立訓練（生活訓練）と就労継続支援（B型）そして生活の場として共同生活援助を利用することができます。」



「とかちダルクは3つの福祉サービスを利用しているということですが、利用者のサービス利用までのざっくりとした流れを端的にお願いします。」



「端的に…ですね。本来なら、見学、体験、面談を行い、認定調査などを済ませてからサービスの利用を開始するのですが、ダルクに来る方の繋がり方は様々で、施設移動や更生保護施設、病院や刑務所からの調整、とかちダルクの自立準備ホームの利用を経る方など、とにかくケースバイケースです。」

「苦労することは何ですか。」



「入所する方の出身地が全国に散らばっているため、津々浦々の市町村と支給決定までのやり取りをすることですかね～」



「とかちダルクは帯広にあるのに全国なんですか。」



「居住地特例というものがあって、援護の実施者が前住所地になるケースが多いんです。」



「電話や書類で調整することに苦労するんですね～。」



「ん、え、あ、まあ、そうですね。」



「あ？違うんですね。（ほんね！ほんね！！）」



「…、まあ、本当に同じ法律で対応されているのかと思うことも…ゴニョゴニョ。」



「あ！そこのところを詳しく！」

「ええええ…、私も私なりに考えた上で当たりを付けて連絡を取るのですが、ほとんどの自治体さまが、最初は《うちではなく帯広になる》と返答されます。その後、居住地特例や過去の事例をお話しすると、検討後そのまま手続きに入ることができるケースと自治体間での（たらい回し）調整になるケースがあります。たらい回しになるとお手上げなのでそんなときは、該当する自治体間で調整してもらったりします。」



「うまくいったとして、支給までのくらいの期間が必要になったりしますのうか。」



「だいたい3ヶ月前後ですかね～。住民票の異動のタイミングや生活保護との兼ね合い、自立支援医療の申請先の確認等も必要になります。」



「注意することはいろいろあるのですね。」



「タイミングや順番を間違えると本人の不利益になる場合もあって、日々勉強です。それに…3ヶ月前後かかると、その間に気持ちが変わってしまい、支給決定する前に退寮してしまう方もいます。」

「うわぁ～！あるあるですね～。」

「仕方がないことなんですかね～。そんなときは関係機関にその旨を伝えて、すみませんでした～と後腐れないように心掛けています。」



「後腐れてしまうと、その後新たに繋がる方にも不利益が生じかねないということですか。」



「いえいえ！そんなことには関係なく、どなたも平等に扱っていただいています。（汗）ただ、関係機関の協力があってこそこのとかちダルクなので、信頼関係を大切に、誠実な仕事をするように心がけているということです。」



「さすが、白々しくきれいにまとめましたね～。」



「うっ……。」



「また教えてください。今日は、ありがとうございました！」

つづく・・・かもしれない

□□ AA 夢グループセミナー参加□□

先日の、5月27日と28日に阿寒湖で行われた「AA 夢グループセミナー」に参加いたしました。

今回はスタッフ3名と他仲間11名、合計14名で参加いたしました。

個人的にはもう10以上年前から参加しております。思い起こせば夢グループが発足する前に、AA 釧路グループの時代からセミナーには参加しておりました。

かつて釧路ではAA 釧路グループのみが活動しており、その後AA 夢グループが誕生しました。一時期釧路には、AA 釧路グループとAA 夢グループと2つのグループが活動しておりましたが、AA 釧路グループが主に毎年のセミナーを行っておりました。行われる時期は大体春先で、雪が解け、一気に花が咲き乱れる北海道の春のセミナーは毎年楽しみなのです。

釧路グループは一人のメンバーが活動しておりました。しかし、数年前にその方がお亡くなりになられて、伝統あるAA 釧路グループも残念ながら閉鎖されてしまいました。個人的に色々声かけてくれることもあって、釧路グループのセミナーでスピーカーさせていたがいたこともあり、思い出深いグループであり、先輩であり、仲間です。そしてそのあとを引き継ぐような形でAA 夢グループのセミナーが開催されるようになりました。

行くたびに挨拶する仲間、話しかけてくる仲間が増えてきて、いつの間にかこういうセミナーに参加するのがとても楽しみになってきました。とかちダルクに入所中で、初めて行く仲間は緊張気味で、いやいやの仲間も多いで、回を重ねるごとに楽しみになってきているようで、「今年はどこですか？何月ですか？」と聞く仲間も増えてきています。いろいろな仲間とふれあい、話を聞くことは本当にいい刺激になります。

さて、9月のラウンドアップは全員参加の予定ですが、登別ということもあり全員、バスで行く予定です。とかちダルクからの参加者は15名を超える大所帯となり、どんな珍道中が展開されるのでしょうか？

アール



薬物依存症のタカです。僕もダルクスタッフとして、とかちに来て7カ月が経とうとしているので、今の状況や自分の中での変化について書くうと思っております。

二ユーズレターを頼まれたとき、東京での出張という名目の気分転換（笑）のときのことを書いてくれと言われたので書きます。

僕は7カ月の間に2回東京へ行き、毎月、帯広、札幌（往復8時間）へ行っています。とかちに来てから初めて東京へ行ったときは、すごい嬉しかったし、東京の仲間に会いたい気持ちと、帯広から

見ると東京はすごい都会なので、すごい楽しみだったし、実際、街を歩いていても、人の多さや街並みがすごい新鮮で嬉しかったし、東京の仲間と会うことやNAが楽しかったし、やはり仲間の関わりやNAはこうでないとという気持ちが強くなりました。

当然僕は、また東京に行きたいと思つたし、東京に行かないと自分のケアができないと感じました。このときは引越しや身辺整理のために行ったのですが、出張という名目でまた5月に東京へ行くことが決まりました。前に行ったのが2月だったので、折り返して5月になるのを楽しみに待っていました。

僕の心境が変わったことに気づいたのは、東京へ向かうその当日でした。前だったら、飛行場へ向かうバスの中でもウキウキし、景色もきれいに見えたのですが、飛行場へ向かうバスを待っていたと



き、僕は、うわーめんどくさい、しかもゴールデンウィークだったので、グループホームでゆっくりしたいという気持ちになっていて、気づきました。自分でも、いやこんなはずじゃない、ちょっと体調が悪いんだらうと思つて、音楽を聴いて自分を奮い上がらせようとしたのですが、結局めんどくさいという気持ちは消えませんでした。そうは言うものの、自分で希望したので行かなければいけません。明日に思つて東京に着きました。

僕は前にお世話になっていた八王子ダルクに泊めて

もらつたのですが、確かに嬉しかったです。八王子の仲間にも会え、僕らは時々OB会というものを開いているのですが、僕が東京に来るということでOB会を開いてもらい、八王子とそれに関わる仲間と焼肉を食べてバカ騒ぎをし、すごい楽しかったです。

前に行ったときは、仲間と会うと楽しいから東京に戻りたいという気持ちになつたのですが、今回は、楽しいけどとかちの仲間は大丈夫だろうか、俺がいなくて悪さしないだろうかと、とかちのことが気になつている自分に気がつきました。とかちダルクに勤めながらも色んなことを否定していた自分は、もうそこにはいませんでした。

まあ、手っ取り早く言えば、目の前のことを全力でやるなら良いが、もしこのままでもいいのかと思つている方がいるならば何かを変えてみよう。変わる勇気を！

会員入会と寄付のお願い

会員募集

とかちダルクでは、随時会員を募集しております。私たちの活動にご理解をいただき、少しでもご協力いただける方の入会をお待ちしております。是非、ダルクの会員となり、活動や運営を支えていただきたいと思います。

ご賛同いただける方は入会申込書に必要事項をご記入の上、会費の納入をお願いいたします。なお、郵便局でお受け取りになる振替兼受領書をもちまして、領収書に代えさせていただきます。領収書が別途必要な方、匿名希望の方は、通信欄にその旨をご記入いただきますよう、お願い申し上げます。

寄付のお願い

とかちダルクの活動は、公的資金だけでは全てを賄うことができず、生活保護申請から決定に至るまでの生活費等をダルクの資金で賄ったり、着るものもなく入所する人をサポートしたりしています。そこで、一般の寄付を会員募集と併せてお願いしております。少しでもご協力していただければ幸いです。

日用品や食料品、消耗品のご寄付も受け付けておりますので、何卒よろしくお願ひいたします。

※なお、大変恐縮ですが、発送作業の簡略化の為、全員の方に郵便振替用紙を同封させていただいております。どうぞご理解ください。

連絡先 0155-67-0911

編集後記

今回のニュースレターは発行が大幅に遅れてしまい、皆様の手に届く頃にはまた次号を編集している頃だと思いません。

発行月の6月は、とかちダルク二度目となる行政の実地指導が行われ、必要書類のチェックに追われる日々となりました。前回よりもスタッフが増え、更に業務の効率化が進められてきたことにより、作業はかなり楽になりましたが、反対に人が増えたことで、人数分の「仕事のやり方」が存在するため、一部の書類の整合性が合いにくくなっている課題を痛感しました。職員間のコミュニケーションの重要性と、作業のマニュアル化の必要性、そして作業の遂行責任を誰が担うのかという共通認識の必要性を考える機会となりました。

この時期の十勝帯広市は、本州から来られる方がびっくりするほどの猛暑が続きます。ただ、昼間さえ乗り切つてしまえば、夜は湿度を含んだ涼しい風がとて心地よく、私は北海道の夏が大好きです。おいでませ北海道！

渡部

HSK リカバリーニュース
昭和48年1月13日 第三種郵便物認可
HSK通巻番号543号（とかちダルク 第19号）
発行 平成29年6月10日（毎月10日発行）
定価 100円（会費を含む）

編集人 住所 北海道帯広市西12条北1丁目13
団体名 特定非営利活動法人 とかちダルク
TEL 0155-67-0911
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会（HSK）